

2月21日、福祉センター寿荘で第15回老人クラブまつりが行われました。老人クラブの皆さんが、日ごろ活動している生け花や絵画、写真などを展示。また、芸能発表の部では、歌や踊りなどを披露しました。宮田作造さん(西ノ根宮内中島・24区)は、「とぎどき寿荘を利用していますが、こんなに多くの方がいるのにぎやかですね。みんなの歌や踊りなどが見られて、楽しいですよ」と話してくれました。



おうちの版多うてこの裏の登場!?

本場、韓国おぶくろの味



3月10日、長柄公民館で韓国料理講座が行われました。この日の献立は、チャプチュエ(春雨と牛肉と野菜のいためもの)とキンパ(韓国のり巻き)。小山裕子さん(光善寺・15区)は、「韓国が大好きなので、本場の味を学びたいと思い参加しました。家でも挑戦したいですね」と話していました。



縄にひっかかりながらね

3月6日、町民体育館で第29回邑楽町スポーツ少年団交流会が行われました。参加した各スポーツ少年団の子どもたちは、ソフトバレーボールや輪投げ、長縄跳びなどを行い、お互いの親ほくを深めました。会場内では、元気な子どもたちの楽しそうな掛け声が響き渡っていました。

うまく巻けるワザを



2月24日、ヤングプラザできれいな花寿司講座が行われ、参加者はばらの花とうさぎの花寿司を作りました。根岸恵美さん(水立大黒・23区)は、「1回つくっただけでは、なかなか覚えるのが難しいですけど、子どものお祝いごとには、ぜひつくってあげたいですね」と話していました。

町の歴史 連載三百五十二回
町時代の町
55
細谷清吉(歴史研究家)

宝田和泉守
館林近国御城古跡鏡に「中野城主宝田和泉守吉勝」と出ています。盛照翁文書には、「享祿二年(一五二九)、赤岩安房守照光御幕下、宝田和泉守、千原田に墨を構ふ」と記されています。宝田和泉守吉勝は青柳城主赤岩安房守照光の幕下として、中野の川島五郎四郎等七騎と同時に中野の千原田へさし置かれました。そして、永祿年間(一五八〇)に小泉城主富岡氏の旗本となつて、千原田から中野城跡へ入部して中野城主となり、旧城郭を修理して当時の城郭形式に

改めました。この宝田和泉守について、館林記には館林城の内乱にその奮戦ぶりが出ています。永祿九年、館林城の家老毛呂季忠は我が子内膳を城主にしようと内乱を引き起こしました。この内乱に宝田和泉守は、小泉城方として出陣し、諸野の一族、海老瀬権平治秀兼が一人で打ちかかって来た。秀兼は肩先を切れ城へ逃げ帰った。諸野はこれを見て強弓を一斉に射かけた。この時小泉の一団が駆け出し、城中からも百騎ばかり出て烈しい乱戦となった。この時宝田和泉守は走り出て「珍しい秀行、われこそ小泉の宝田和泉守勝成なり日頃の武勇あらわさんこと今日にあり、この世のいとま取らせくれん」と大音発すれば、秀行は怒り立ち、太刀ふりかざ

して斬りかかる。双方のきを削り、つばを割り、火花を散らして戦ったが、どちらも芳らぬ猛將で決することがなかった。その時宝田勝成は「いつまでか、戦いくらさん。いざ組まん」と大手を広げて組みかかる。両雄もみ合いつつ、両馬の間にとつと落ち、両雄上になり下になり勇力を争い、勝成が秀行の首をかき取って立ち上がりとする所へ、諸野因幡守が一子、内膳正がかけつけて、叔父の仇と斬つてかかる。内膳は新事で勝成が危うく見えた時、小曾根方の二人の武士が駆け寄って前後から内膳を生け捕らうとし、後、善長寺における和睦の席上、毛呂因幡守とその子内膳父子は切腹させられた。



千原田古塁跡